

【研究大会参加報告書】

第24回 新潟県社会教育研究大会柏崎・刈羽大会
 第63回 中越地区社会教育研究集会 に参加して

1 研究主題

社会の変化に対応した社会教育の在り方について
 ～ みんなで学び、みんなで未来につなげる 人づくり・地域づくり ～

2 日 時

令和6年10月9日（水）13:00～14:30

3 会 場

柏崎市市民プラザ （※ オンライン参加）

4 内 容

(1) 開会式・表彰式

- 会長挨拶や県教育長祝辞等があった。
- 令和6年度新潟県社会教育委員連絡協議会表彰で、9名の方が表彰された。

(2) 講演会

○ 演題

『地域に学び、地域をおこす ～地域連携活動を通じた学生の成長～』

○ 講師

新潟産業大学 准教授 権田 恭子 様

○ 講演概要

- 若者の柏崎住みたい度調査「柏崎が好きですか」・・・「好き」が少なく、「どちらとも言えない」が多い
- 柏崎市の人口推計より・・・20代前半の女性の市外流出が目立つ
- 進学校ほど、市外・県外に出たい傾向大きい（進学，就職）
- 社会の変化を「自分ごと」として受け止めることが大事
- 「地域」に自分を位置付け、行動を起こす・・・そのことが「世界の未来」に続いていく（新潟産業大学の地域実践教育プログラム）
 - ◆ 「あんこジャム」のPR動画制作
 - ◆ 「蒔絵コースター」のキャラクター，パッケージのデザイン
 - ◆ 「まちかど研究室」活動（中心市街地の活性化）
- 大学生の地域活動＝「調査」ではなく「連携/貢献活動」に挑戦してほしい
- 地域連携の意義＝「①地域を知る」「②地域の方と交流する」「③地域のために行動する」・・・このプロセスがやがて「課題解決」につながっていく
- 地域連携活動が継続することにより，地域に詳しくなり，知り合いが増え，楽しくなっていく
- 大学や地域に「誇り」をもつようになり，卒業生が頻繁に大学やイベントに訪れる・・・市外・県外出身者が柏崎や近隣に就職するようになる（若者の定着につながる小さな一歩）

(3) 分科会（※ オンライン参加のため，なし）

(4) 閉会式（※ オンライン参加のため，なし）

5 感 想

- 権田准教授の熱い思いのこもったお話をお聞きし，若者が地域連携活動を行うことを通して，若者の流出の歯止めになっていることを知ることができました。人づくり，地域づくりの大切さを再認識することのできた，有意義な研究大会でした。

（報告＝竹田暢美）

第24回 新潟県社会教育研究大会柏崎・刈羽大会
第63回 中越地区社会教育研究集会 参加レポート

氏名 山岸 則子

- 1 期 日：令和6年10月9日（水）
- 2 会 場：柏崎市市民プラザ（※オンラインで前半の講演会のみ参加）
- 3 参加者：県及び市町村社会教育委員、社会教育・社会体育・学校教育関係者等
- 4 研究主題： 社会の変化に対応した社会教育の在り方について
～みんなで学び、みんなで未来につなげる人づくり・地域づくり～
・開会式、表彰式

【講演会】演題『地域に学び、地域をおこす』
～地域連携活動を通じた学生の成長～
講師 新潟産業大学 准教授 権田恭子氏

講演概要

- ・セカイ系から地域社会の注目
キミとボク→中間（家族、学校、地域、国家）
- ・東日本大震災、新型コロナウイルス感染症拡大などリアルな危機から田舎でも身近な人がいる大切さの気づき
- ・一方で柏崎が好きですか？の調査では年齢を重ねるほど低くなる
住みたい度調査でも進学校ほど市外、県外に出たいという傾向
- ・「地域に学び、地域をおこす」新潟産業大学の教育実践プログラム紹介
- ・1，2年次必修「地域理解ゼミナール」
地域おこしのために地域の企業や施設などのフィールドワークを通じて地域を理解する第一歩とし調査研究
- ・3，4年 地域の魅力発見・発信のためのPR活動
地域の人々とともに行うまちづくりを実践的に学ぶ
- ・成長できるまちづくりゼミ
 - 1 地域を実際に動かす活動ができる
 - 2 コミュニケーション力に自信がつく
- ・活動が継続するしくみづくり

感想 講演では大学が地域の課題解決を、学生の学びや体験から解決につなげる過程と事例が紹介された。柏崎の地域性や特性をうまく生かした活動であると同時に活動を通じて学生たちが柏崎を好きになり、柏崎での就職や、人をつなげるような職種に就職しているということは今の社会のいい循環に大学が繋がっていると感じた。